

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：イチゴ「ふさの香」の栽培法			
[要約]「ふさの香」の栽培を行う上では、クラウン径8～10mmの苗を目標とし、定植は花芽分化後、直ちに行い、株間は20cmを標準とする。冬期の最低夜温は6℃とし、11月20日から2月上旬まで電照を行う。			
キーワード（専門区分）栽培		（研究対象）野菜類 - イチゴ	
（フリーワード）イチゴ、品種、ふさの香			
実施機関名（主査）農業総合研究センター生産技術部野菜研究室 （協力機関） （実施期間）2001年度～2002年度			

[目的及び背景]

平成15年3月に品種登録となった「ふさの香（ふさのか）」は、遊離酸含量が少ないため強く甘みを感じ、さらに上品な特有の芳香と特徴的なメルティングな肉質を有する極めて良食味の品種である（表1）。「ふさの香」の普及を図るために栽培法の検討を行う。

[成果内容]

「ふさの香」の栽培に当たっては、以下のような点に注意する。

1. ポット育苗では、親株を3月中下旬にプランターに植え、7月上旬までに9cmから10.5cmのポリポットに受ける。定植時にはクラウン径8～10mmの中苗から大苗を目標とする（図1）。
2. 定植は花芽分化を確認したら、直ちに行う（図2）。ポット育苗では、9月15日頃が花芽分化時期に当たる。これより遅れた場合は、定植まで液肥を給液すると減収程度はやや抑制できる。
3. 株間は20cmを標準とし、大玉化を図るときには25cm程度に広くする（図3）。
4. 収量、品質を維持するために、冬期の最低夜温は6℃とし（図4）、日中は25℃を目標とする。
5. 電照は11月20日から2月上旬まで、3時間程度の日長延長を行う（図5）。

[留意事項]

1. 収量は「とちおとめ」に比べやや少ないので、食味が極めて良いことをアピールして、有利販売を行う。
2. 遊離酸含量が低いいため、糖含量が不足すると極端に食味が低下するので、昼間の高温管理を避け、25℃以下とする。
3. 基肥施用量は、窒素成分量で15～20kg/10aを標準とする。追肥は10月中旬頃から月1～2回、窒素成分量で1kg/10a程度施用する。
4. うどんこ病にはやや強いが開花期までの予防を徹底する。また、炭疽病、萎黄病には特別な抵抗性はないため、雨除け下での育苗、土壌消毒等により、予防を徹底する。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況] 山武地域の直売経営を中心に広く普及

[成果の概要]

表1 「ふさの香」及びイチゴ3品種の果実特性

品 種	糖・酸含量(€/100ml果汁)				遊離酸 (Brix%)	糖度 (Brix%)	糖酸比
	ショ糖	ブドウ糖	果糖	全糖			
ふさの香	3.1	2.1	3.3	8.5	0.52	10.1	16
とちおとめ	5.9	1.6	2.5	10.0	0.67	11.6	15
とよのか	3.3	2.2	3.4	8.9	0.66	10.8	13
女 峰	3.9	1.8	2.9	8.6	0.73	10.4	12

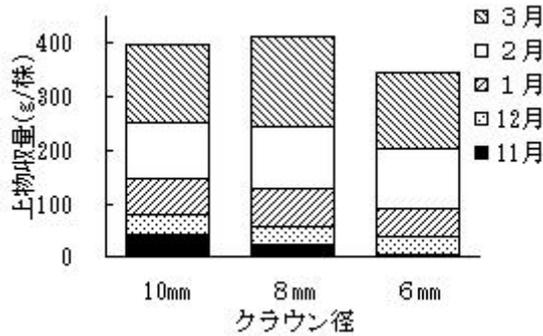


図1 苗の大きさが異なる「ふさの香」の収量

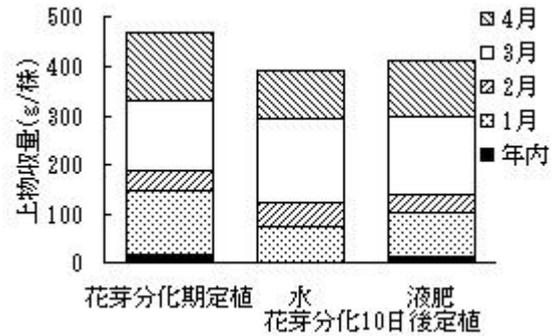


図2 花芽分化期定植、及びその10日後の定植の窒素施用が異なる苗による収量

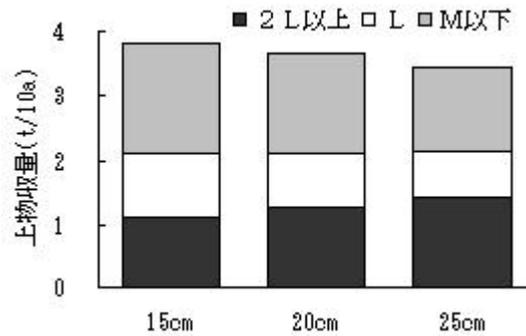


図3 株間異なる「ふさの香」の階級別収量

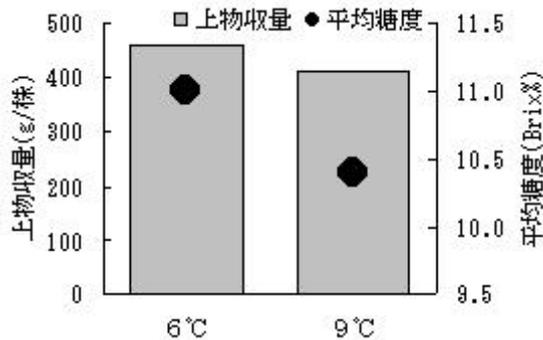


図4 夜温異なる「ふさの香」の収量と糖度

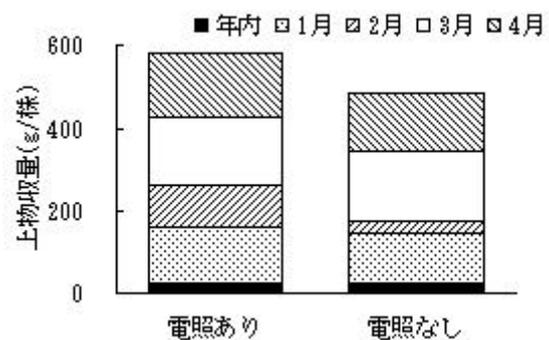


図5 電照の有無異なる「ふさの香」の収量

[発表及び関連文献]

園芸学会平成15年度秋季大会

平成13 - 14年度野菜試験研究成績概要集(公立) - 関東東海 - (野菜茶業試験場編)

千葉県農業総合研究センター研究報告第3号